

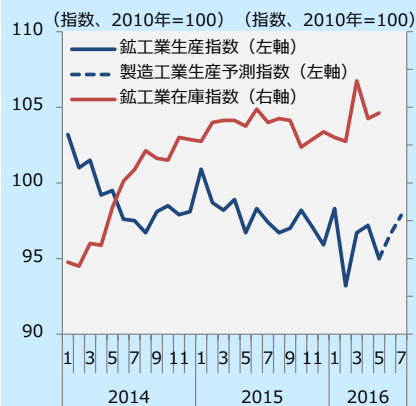
日本：鉱工業生産指数（2016年5月）

—内外需の弱さを映じて緩やかな低下傾向—

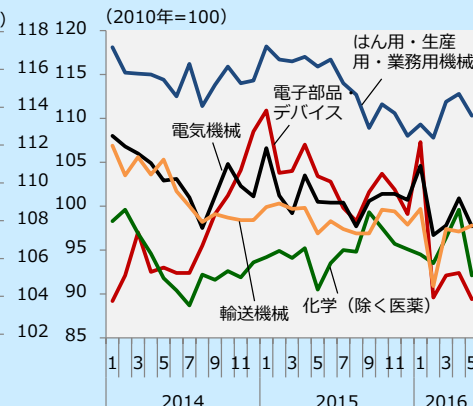
MRI Daily Economic Points

June 30, 2016

図表 鉱工業生産／在庫指数



図表 業種別の生産指数

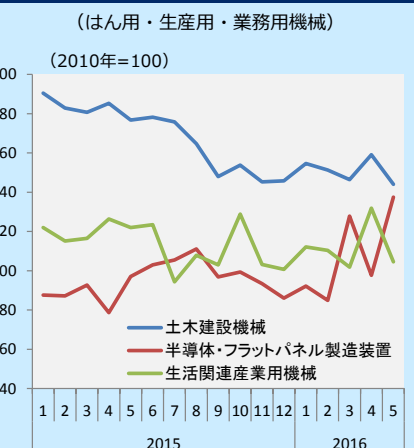
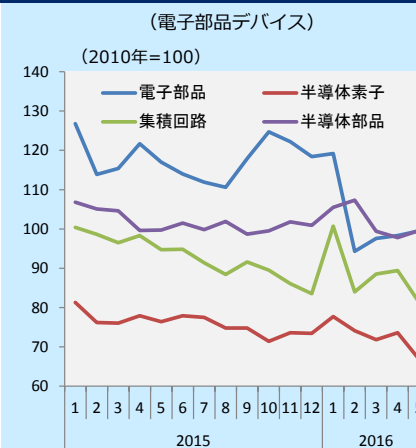


評価ポイント

2016年5月の結果

- 2016年5月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲2.3%と3か月ぶりの低下となった。出荷指数も同▲2.3%と3か月ぶりに低下。前月時点では、5月は生産回復が見込まれていたが、大きく下振れた。
- 5月の生産の業種別内訳をみると、輸送用機械(同+0.7%)は、軽自動車燃費不正問題で前年割れしたものの、小型・普通自動車は熊本地震からの挽回生産などにより増加した結果、小幅な上昇となった。一方で、化学工業(同▲7.5%)が前月大きく増加した化粧品の反動もあり低下。電子部品・デバイス(同▲3.2%)も、需要の伸び悩みが続く半導体素子や集積回路が主因となり低下となった。また、はん用・生産用・業務用機械(同▲2.2%)は、建機や産業機械の反動減により低下したが、均せばいでの推移となっている。
- 在庫指数は、季調済前月比+0.3%と2ヶ月振りの上昇となり、依然として高水準で推移。電気機械と電子部品デバイスの在庫水準高止まりが寄与している。
- 製造工業生産予測調査によると、6月(季調済前月比+1.7%)、7月(同+1.3%)と上昇を予測しているが、予測調査対比で下振れる傾向を踏まえると、4-6月の鉱工業生産は、季調済前期比で小幅マイナスとなる可能性が高い。

図表 品目別の生産指数



基調判断と今後の流れ

- 生産は、このところの振れは大きいものの、内外需の弱さを映じて、均せば低下傾向にある。
- 生産の先行きは、予測指数では緩やかな持ち直しが続く見通しだが、在庫水準も依然として高いうえ、外需・内需ともに回復力が鈍いことから、当面は横ばい圏内の推移を見込む。外需は、英国のEU離脱選択による、円高進行や先行き不確実性の高まりによる設備投資の下振れが生産の重石となる見込み。また、内需は、消費の伸び悩みや自動車の燃費不正問題が生産下振れ要因となろう。